

(理事コメント) 私の取り組み

四柳 宏

日本医療安全推進学会(JSMSP) 初代理事長
東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野 教授

本学会の目的は臨床における高度な医療安全文化を推進するため、ノンテクニカルな安全、専門各分野での安全を取り上げることです。

特に臨床の場における安全に関しては病院内においてこれまで注意が払われてきた個々の患者に対する安全は勿論のこと、加えて感染症パンデミック・大規模自然災害など施設、さらにはコミュニティ全体の安全を考える必要があります。本学会はそのための意見交換・活動を行って参ります。

感染症パンデミックの際の医療安全に関しては2023年の発足準備大会の際にシンポジウムを行い、医療従事者を中心に様々な方がどのようなことを経験されたかその経験を共有し、今後の対策に関して議論が行われました。(医薬品を安全に使用するためのシステム、医療安全上の危機が起きた場合の倫理的問題、法医学上の問題、さらには教育の問題も話し合われました)。

この大会では大規模自然災害の代表である大地震に備えて皆でどのようなことに備えるべきかについて東京大学の沼田宗純先生(大学院情報学環附属総合防災情報研究センター)にご講演を頂き、参加者一同深い学びの機会を得ることができました。

その3ヶ月半後に能登半島地震があり、私たちは震災後の安全上の問題を身をもって体験することになりました。能登半島地区では耐震建築の計画もなかなか進んでおらず、結果的に家屋の崩落で命を落とす人が相次ぎました。ライフラインが破壊され、現地への道路も寸断される中、医療上必要度の高い人からどのように避難して頂くか、能登半島から避難できない人の健康をどのようにして守るか、新しい問題が次々と発生しました。私自身も被災された方の感染症対策に関わる中、色々なことを学びました。

当学会のような医療安全の他にパンデミック・大規模自然災害も対象とする学術団体では実際の経験をお互いに共有しながら、その背景にある問題を考え、対策立案を行うことが大切です。今回はたまたま能登半島地震の発生と重なりましたが、地震に限らず災害の多いこの国で学会を通じてできることを考え、実行するのは大切なことだと改めて感じました。

今後皆さんのいろいろな経験を共有して話す機会が持てればなと願っています。